

「OPEN SITE (オープンサイト) 2016-2017」 Part 3/Part 4

Part 3 | 2017年1月14日(土) - 2月12日(日)

Part 4 | 2017年2月25日(土) - 3月26日(日)

トーキョーワンダーサイト本郷

OPEN SITE

TWS の新しいアート・プラットフォーム・プログラムが始動しました！



オープンサイトは若手アーティストの発掘・育成、実験的創造活動の支援を行うアートセンター、トーキョーワンダーサイト（TWS）が立ち上げた、全ての表現に門戸を開いた新しい形のプラットフォームです。アートの領域横断化がますます加速し、既存のジャンルの持つ意味が改めて問い直されている現在、音楽、美術、演劇、ダンス……、様々な分野にルーツを持ちながらも、これまでにない表現を志向し、社会へと問いかけていく意欲的な企画を紹介します。国内外から集まった250を超える応募から選ばれた16の公募企画と、TWSが推奨する4つの企画を、2016年10月より半年間にわたりTWS本郷で実施しています。観る人にも、表現する人にもオープンでクリエイティブな創造の場（=サイト）を目指してスタートしたプログラムに、是非ご期待ください。

本プレスリリースでは、2017年の年明けから開催するPart 3, Part 4の企画をご案内します。

会場：トーキョーワンダーサイト本郷（東京都文京区本郷2-4-16）

休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日）

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト

ウェブサイト：<http://www.tokyo-ws.org>

＜お問い合わせ＞ 〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内
 公益財団法人東京都歴史文化財団トーキョーワンダーサイト
 広報担当：市川、藤井 TEL: 03-5602-9881 FAX: 03-5602-9882 E-mail: press@tokyo-ws.org

■実施企画

【プロジェクトA】

パフォーマンス、現代音楽、ワークショップ、スクリーニング、演劇、ダンスなど、時間を軸に展開する企画。

公演スケジュールは企画により異なります。鑑賞にはチケットが必要です。

入場料：有料（各企画によって異なります）詳細はTWSウェブサイトをご覧ください。

会期	企画者名（拠点）	企画タイトル
Part 3	いまいけぷろじえくと（日本）	今村俊博×池田 萌 第5回 パフォーマンス・デュオ公演 音楽のバウンダリー
	絶対的（東京 / 香港）	彼と私
	小森はるか+瀬尾夏美（日本）	上映とトーク『波のした、土のうえ』
Part 4	児玉北斗（スウェーデン）	Tragedy 1769
	素我螺部（日本）	SELL OUR BODY Exp
	つむぎね（日本）	○

【プロジェクトB】

展覧会、リサーチ・プロジェクトの展示発表、ディスカッション・プラットフォームの創造など、空間に展開する企画。

各企画ともTWS本郷の開館時間内(11:00-19:00)に鑑賞いただけます。入場無料。

会期	企画者名（拠点）	企画タイトル
Part 3	フィオナ・アムンゼン（ニュージーランド）	アーセナル・オブ・デモクラシー
	ユナイテッドピープル株式会社（日本）	未来を創る映画館展
Part 4	井上亜美（日本）	猟師の生活
	ハビエル・レオン・ボルハ（エクアドル）	ロング・ナイト

各企画の概要、公演日時、チケット料金等の詳細は p.3-7 をご参照ください。

■企画情報 [プロジェクト A]

※内容は企画者から提供を受けた資料に基づきます。

いまいけぷろじえくと

公募プログラム

「今村俊博×池田 萌 第5回 パフォーマンス・デュオ公演 音楽のバウンダリー」

コンサート

公演日時：2017年1月21日（土）19:30 開演、22日（日）14:00 開演
料金：2,000円

内容：

6人の作家によって書かれた作品の上演を通して「音楽」を再考する試み。どこからが／どこまでが音楽なのか。本公演では「いまいけぷろじえくと」の今村、池田の新作に加え、「悪魔のしるし」の危口統之と振付家・ダンサーの岩淵貞太による新作、三輪真弘と川島素晴による作品の再演を、今村と池田が演奏します。

[プログラム]

危口統之（演出家／悪魔のしるし主宰） | 新曲初演

岩淵貞太（ダンサー、振付家） | 新曲初演

今村俊博 | 新曲初演

池田 萌 | 新曲初演

川島素晴 | HACTION MUSIC II (2015)三輪真弘 | 算道演算「二人だけのまたりさま / 畏祠多宮の御
(三) 拍子 (いしたみやのみびょうし)」 (2016)

企画者プロフィール：作曲家兼パフォーマーの今村俊博と池田萌によるユニット。2014年11月第1回公演「身体の魅力・無力・戦闘力」、2015年6月第2回公演「《祝祭》から《内省》へ」、2016年3月第3回公演「ふじもとくんといっしょ!」、同年9月第4回公演「続・《祝祭》から《内省》へ」をそれぞれ東京・愛知の2回公演で開催。

絶対的「彼と私」

推奨プログラム

演劇

公演日時：2017年2月4日（土）19:30 開演、5日（日）14:00 開演
料金 1,500円

内容：

“対話”は、新しいエネルギーを生み、その次の局面をもたらす。境界がどこにあり、どう越えていくか。越境する“対話”=それは、互いを深く理解する方法。

香港を拠点に活動する演劇人・梵谷、能楽師・鶴沢光、舞踏家・武田幹也をプロジェクトメンバーに迎え、現代／伝統、香港／東京、越境し、移動し続ける身体／対話は、何を見つけるのか。

参加アーティスト：梵谷（香港／現代演劇）、鶴沢光（東京／能楽）、武田幹也（東京／舞踏）

キュレーター：川口智子（東京）、卓翔（香港）

企画者プロフィール：演出家・川口智子（東京）とドキュメンタリー映像作家・卓翔（香港）を中心に、現代演劇、コンテンポラリーダンス、舞踏、広東オペラ、作曲等、多分野で活動するアジアのシェア世代による移動劇場として、2013年に活動を開始。『絶対飛行機』（作：佐藤信）の日本語、広東語による上演活動を継続中。

■企画情報 [プロジェクト A]

※内容は企画者から提供を受けた資料に基づきます。

小森はるか+瀬尾夏美「上映とトーク『波のした、土のうえ』」

公募プログラム

上映会



《波のした、土のうえ 一花を手渡し明日も集う》

上映日時：2017年2月10日（金）19:15 開始

11日（土・祝）14:00/19:15 開始、12日（日）14:00 開始 | 料金：1,000円

内容：

毎年訪れる3月11日を前に、小森+瀬尾が2014年に制作した映像作品の上映と、ゲストを迎えたトークイベントを3日間にわたって開催します。「波のした、土のうえ」は、津波を受けた沿岸の町、「陸前高田」で出会った人びとの言葉と風景の3年8ヶ月の記録を、物語を起こすように構成した作品です。

2/10（金）19:15 回、2/11（土）19:15 回終了後、

小森はるか+瀬尾夏美によるアフター・トークを行います。

2/11（土）14:00 回、2/12（日）14:00 回終了後、

ゲストによるアフター・トークを行います。

※詳細はTWSウェブサイトにてお知らせします。

企画者プロフィール：映像作家の小森と画家で作家の瀬尾によるアートデュオ。2011年3月、東北沿岸にボランティアに行ったことをきっかけにして活動を開始。2012年、岩手県陸前高田市に拠点を移し、以後、日々移り変わる風景と人びとのことばの記録を続けている。2015年、東北で活動する仲間とともに、記録を受け渡すための表現を実践的につくっていく組織「一般社団法人NOOK」を設立。

児玉北斗「Tragedy 1769」

公募プログラム

ダンス

公演日時：2017年3月2日（木）19:15 開演、3日（金）19:15 開演

4日（土）14:00/19:15 開演、5日（日）14:00 開演 | 料金：1,000円



内容：

本作は、「外国産のペットボトル入りの水」という資本主義の生み出したジョークのような都市的現象を表象的題材としたアネクドットの体裁を取る。空になったペットボトルを前にしたとき、認識されるのは「空の」ペットボトルである。不在であることによって浮上する物自体としての水と、現前しつつも疎外されたペットボトルという容器。このような形而上学的葛藤は、エネルギー保存法則の再認識へと我々を導き、同時に疑問を投げかける。1769年ワットの蒸気機関発明に端を発し、人間から解放されて権力化した産業システムと、今はその下に捕らえられたかつてのアルケー（原理）である水。肥大化する社会の多重構造の中でますます不在となりゆく身体を逃走線として、水と経済のねじれた関係性にパフォーマンス的なアプローチを試みる。

企画者プロフィール：ダンサー／コレオグラファー。幼少より両親のもとでバレエを始め、ヴァルナ国際コンクールなどで入賞の後、サンフランシスコバレエスクールに留学。2001年よりアルバータバレエ（カナダ）、レ・グランバレエ・カナディアン（カナダ）、ヨーテボリバレエ（スウェーデン）に所属の後、現在スウェーデン王立バレエ団ファースト・ソリスト。Wim Vandekeybus, Mats Ek, Johan Inger, Alexander Ekman など世界的な振付家の作品の創作に参加、初演キャストを務めるほか、Ohad Naharin, Sasha Waltz, Crystal Pite, Sharon Eyal などのレパートリーでも活躍。2013年には JAPON dance project を有志で結成、2014年と2016年に新国立劇場の主催による公演を行い、振付・出演・音楽を担当した。2016年よりストックホルム芸術大学修士課程（コレオグラフィー）在籍中。

■企画情報 [プロジェクト A]

※内容は企画者から提供を受けた資料に基づきます。

素我螺部「SELL OUR BODY ExP」

推奨プログラム

ダンス

公演日時：2017年3月10日（金）19:30 開演、11日（土）14:00/19:30 開演
12日（日）14:00 開演 | 料金：2,800円
TOKYO EXPERIMENTAL FESTIVAL Vol.10 特別賞受賞



内容：

ただただ生きるわたしたち、まだまだ人生ラビリンス。変わりゆく身体とあの場所。ダンス、ギター、理論生命科学の混じり合いにより呼び起こされる自他非分離性。演者・観客が相互に浸食し合い、互いの身体感覚を巻き込む実験劇場。自でも他でもない人と人とのつながりは深化共鳴することができるのか。

参加アーティスト：藤井b泉、宮原由紀夫、篠原未起子、原大介、西山雄大

企画者プロフィール：2014年夏結成。日本初劇場専属舞踊団 Noism1 を共にした藤井b泉 + 宮原由紀夫 + 篠原未起子、ギタリスト原大介によるクリエイティブダンスグループ。『SELL OUR BODY』公演ツアーを皮切りに創作活動に並行して市や大学の事業に参加するなど枠組みを越えた活動を展開中。

<https://m.facebook.com/8scarabe8/>

つむぎね「〇」

推奨プログラム

ダンス

公演日時：2017年3月25日（土）15:00/19:30 開演、3月26日（日）15:00 開演
料金：2,500円



内容：

つむぎね3年ぶりとなる新作公演。タイトル「〇」は円であり、輪であり、ゼロであり、オーである。「全」であり、また「無」でもある。発音は限定しない。特定の言語によらず、多義的な解釈を含み、すべての原点を意味する。これはすべての始まりと終わり、原点回帰であると同時に新たな出発を祝う、春の芽吹きに行われる一つの「蘇生の儀」である。

参加アーティスト：宮内康乃、ArisA、浦嶋晶子、大島菜央、筒井キリイ、ほか

企画者プロフィール：2008年より作曲家・宮内康乃を中心に結成した、女性たちによる音楽パフォーマンスグループ。楽譜ではなく、人間の呼吸のリズムをきっかけとする単純なルールをもとに音を紡ぎ出していく独自の表現により演奏を行う。おもに声や鍵盤ハーモニカを使い、個々がそれぞれ音の粒子となり、その粒子が複数重なりあって、変化、融合することで空間上の響きを紡ぎ出していくパフォーマンスを展開する。また、照明、衣装、音以外の演出も含めて総合的に表現する、独自のスタイルの確立を目指している。 <http://tsumugine.com/>

■企画情報 [プロジェクト B]

Part 3

会期 | 2017年1月14日(土) - 2月12日(日)

オープニングトーク | 2017年1月14日(土) 15:00 - 17:00

出演:アーヤ藍(ユナイテッドピープル株式会社)、フィオナ・アムンゼン 他 ※日英逐次通訳あり

※内容は企画者から提供を受けた資料に基づきます。

ユナイテッドピープル株式会社「未来を創る映画館展」

公募プログラム

展覧会

上映会



ユナイテッドピープル配給作品(参考画像)

内容:

映画の多様性を担保してきたとも言えるミニシアターが減少し、画一的な大型映画館ばかりが増えている昨今。そんななか、映画館以外で、映画を共有する「場」をつくらうとする動きが広がり始めている。そこには従来の映画館にはなかった、映画を共有することで生まれるコミュニティとしての機能や、市民発の企画の過程で育まれる主体性などの、新しい可能性も内包している。そんな、新たな未来を育む、未来の「映画館」を可視化し、体感できる企画。

※以下の日程で特別上映会を実施します(無料):

1月22日(日) 17:00-19:00 「ヴィック・ムニース ごみアートの奇跡」

1月28日(土) 14:00-16:00 「ジェンダー・マリアージュ」

2月4日(土) 14:00-15:30 「それでも僕は帰る 若者たちが求め続けたふるさと」

2月12日(日) 16:30-18:00 「ザ・トゥルー・コスト ファストファッション 真の代償」

また、会期中には市民上映会についてセミナーを行います。詳細はTWSウェブサイトにてお知らせします。

企画者プロフィール:「人と人をつないで世界の課題を解決する」をミッションに、映画の買い付け・配給・宣伝事業を行う。扱っている映画は、環境問題や人権問題、幸福論など、社会的メッセージ性があるもので、主にドキュメンタリー。そうした映画のテーマについてより深く考えてもらえるよう、映画館での上映のみならず、カフェ・レストラン・公民館・大学・企業等で映画を上映してくれる仲間を募り、運営サイト「cinemo」を通じて、市民上映会の輪を広げている。

<http://unitedpeople.jp>

フィオナ・アムンゼン「アーセンナル・オブ・デモクラシー」

公募プログラム

展覧会



《神聖な名誉》

内容:

第二次世界大戦時のアメリカで日系人が過酷な状況に置かれる中、日系アメリカ人のベン黒木氏は、米国で唯一太平洋地域の軍事作戦に参加を認められた。本展は、ピッツバーグの旧鉄工所跡地キャリー・ファーンズの画像と1945年東京大空襲についての多数の音声録音を用いて、映像や写真作品を中心に構成する。

この作品は、単に歴史的事実を再生するのではなく、歴史、文化、多言語に及んだ複雑な経験をイメージとして現す。さらに、写真や動画がどのように過去を現在に伝えることができるかをも問いかける。

※会期中トークイベントを予定しています。詳細はTWSウェブサイトにてお知らせします。

企画者プロフィール:ニュージーランド在住。アーティスト。アジア太平洋戦争の歴史的跡地が抱えるトラウマ、社会的、政治的な物語、記憶についてレンズを通し、写真と映像で表現している。彼女は、この戦争の歴史について、誰が思い出すことを許されるのか、倫理的に思い出すということはどういうことなのか、更にその記憶がどのように見えてくるのかを追及している。そして、この歴史がどのように現在へ表れ、何を意味し、今では見えなくなった過去の残骸から何を学ぶことができるのかを問いかけている。

協力 | Support: AUT University (New Zealand)、Neu Kirche Contemporary Art Center (USA)

■企画情報 [プロジェクト B]

Part 4

会期 | 2017年2月25日(土) - 3月26日(日)

オープニングトーク | 2017年2月26日(日) 15:00 - 17:00

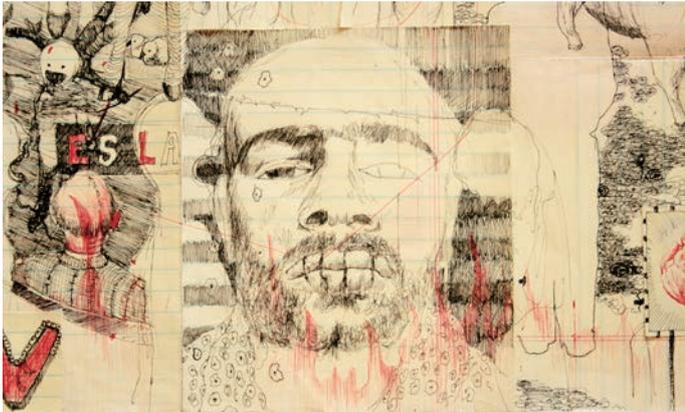
出演: 井上亜美、ハビエル・レオン・ボルハ 他 ※日英逐次通訳あり

※内容は企画者から提供を受けた資料に基づきます。

ハビエル・レオン・ボルハ「ロング・ナイト」

公募プログラム

展覧会



《The Long Night》(部分)

内容:

高度に実利的となった今日の社会において、暴力はより普遍的な存在となった。繰り返される紛争や災害のニュースに、人々は無関心な態度、あるいはパラノイア的の反応を示す。「ロング・ナイト」は移民、セックスワーカー、紛争被災者など、正史では語られない人々の物語である。彼らを記録した写真などのイメージを抽象的、幻想的に描きなおすことで、私たちの沈黙と忘却について考察する作品へと再構築する。私たちの誰もが目にしたことのある、ある事件や紛争を象徴するような写真は、いくつかのクリエイティブな過程を経ることで、時代や記憶を包括した作品として生まれ変わるのである。

※会期中トークイベントを予定しています。詳細はTWSウェブサイトにてお知らせします。

企画者プロフィール: エクアドル、キト生まれ。6年メキシコシティに在住し、メキシコ国立自治大学の修士課程においてビジュアルアートを学ぶ。また、1年半ハバナに滞在し、2012年からキト在住。現在、エクアドル中央大学美術学部学部長。

Support: Universidad Central del Ecuador / Cooperation: Ministry of Foreign Affairs of Ecuador

井上亜美「猟師の生活」

公募プログラム

展覧会



内容:

「猟師の生活」では、山と都市を行き来しながら、猟師として生活する私の行動が淡々と映し出される。動物の毛皮を洗ったり、肉を調理したりと、動作そのものは原始的であるが、それが東京の無機質な建物内でおこなわれていることで奇妙な光景として映る。さらに、同時に見せられる狩猟の光景によって、その生活の非日常さが露わになっていく。

企画者プロフィール: 1991年宮城県生まれ。東京藝術大学大学院映像研究科修士課程修了。在学中に狩猟をはじめ。猟師として生活する傍ら、狩猟の現場でつぎつぎに起こる出来事をエスノグラフィックな視点で見つめ、自身が出演・演出する手法で映像作品を制作している。作品に、都会で暮らす猟師の奇妙な生活を描いた「猟師の生活(2016)」、震災後に猟をやめた祖父を追った「じいちゃんとわたしの共通言語(2016)」などがある。現在、第5期HAPSスタジオ使用者として京都市在住。

協力: 東山アーティスト・プレイメント・サービス (HAPS)

■公募プログラム 募集概要

募集期間：

2016年4月15日（金）－5月23日（月）

応募総数：

プロジェクト A: 111 企画 / プロジェクト B: 148 企画 計 259 企画

審査員：

三輪真弘（作曲家、メディアアーティスト、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 教授）

畠中実（NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] 主任学芸員）

杉田敦（美術評論家、女子美術大学教授）

今村有策（トーキョーワンダーサイト館長）

黒田みのり（トーキョーワンダーサイト事業課長）

■オープンサイト Part 1, Part 2 のご案内

Part 1 | 2016年10月15日（土）－11月13日（日）※オープニングトーク：10月16日（日）

〔プロジェクト A〕

小宮知久（日本）「泳ぎつづけなければならない」

ジェイム・アイバニーズ（オランダ）「コンテンポラリー・プリミティブ・アニメーション」

〔プロジェクト B〕

荒木優光「Acoustic Device 騒音のための5楽章」

POST-ER OFFICE 実行委員会（日本）「POST-ER OFFICE」

Part 2 | 2016年11月26日（土）－12月25日（日）※オープニングトーク：11月27日（日）

〔プロジェクト A〕

アレクサンドラ・ニエンチク（ノルウェー）「ISHI」

デシベル・ニュー・ミュージック・アンサンブル（オーストラリア）「チャンス・フィギュレーション」

バイナリー（オーストラリア）「バイナリー：二本のフルートのためのコンサート」

西尾佳織（日本）「2020」

〔プロジェクト B〕

柯念璞（コー・ネンブ）（台湾）「旗、越境者と無法地帯」

永田康祐（日本）「Therapist」